

東大見学会 感想文(①ディレクトフォース)

私たちの班は、1日目のディレクトフォースで、新日鐵住金の本社を訪れて、会社説明やディスカッションなどのさまざまな経験をさせていただきました。

まずは、広報の方や二高 OB の社員の方などから、新日鐵住金での仕事についての説明をいただきました。事前にある程度の情報は得ていたと思っていましたが、やはり社員の方々のお話を直接聞いたことで、新しく知れたことがたくさんあったので、直接話を聞くのはとても大事なことだと改めて思いました。また、新日鐵住金で実際に作っていたり扱っていたりする製品を間近で見ることができて、とても感動しました。

次に、ディレクトフォースや社員の方々を交えたディスカッションを行いました。私は、どちらかという人前で自分の考えを話すことが得意ではないので、周りの人にうまく自分の意見を伝えることができず、迷惑をかけてしまったというふうに感じたので、この反省を生かし、もしも今後このような機会があったときには、堂々と周りの人に分かりやすく伝えることができるように、少しずつ練習を重ねていきたいです。

今回訪れた本社は、社員のみなさんでも一度も入ることなく退職される方々がとても多いということを知り、一生に一度あるかないかのような貴重な経験をさせていただいたのだなと思いました。大変お忙しい中、お仕事の合間を縫って私たちのために時間を割いていただいた社員の方々、ディレクトフォースのみなさんにお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。



企業大学訪問

私たちの班は、企業大学訪問で順天堂大学を訪れて、天皇陛下の手術を執刀されたことでも有名な心臓外科医の天野篤教授のお話を聞くことができました。

天野先生には、たくさんの質問に答えていただけました。そのなかでも、自分が質問させて頂いたものや、これから忘れないでおきたいと感じたお言葉を感想文としてまとめたいと思います。

まず私は、医師になるうえで大切なことは何かという質問をさせて頂きました。それに対する天野先生の答

えは、「自分が一番医師に向いていると思うこと」、それから、私たちが順調に医師になれたとしても、生涯で日本の人口の1%ほどしか診ることができないのだから、より多くの人を公立・公平に救うことを考えるべきだ、とも仰っていました。また、何か気づいたら無視しないこと、思い立ったらすぐに行動することの他に、一番強調されていたのが「今から、どういった医師になりたいかの具体的なイメージを持ち、その具体像を目指す」ことでした。私はこのことを聞いて、中学時代から目標にしていた「患者さんだけでなく、他の医療スタッフにも信頼される医師になりたい」ということを改めて思い直すことができました。

天野先生には、医師になってから大切にすべきこともお話いただきました。他人に何かを伝えるときには、自分も相手も、さらに周囲の人も納得できるような言動を心がけるべき(つまり、リーダーシップを持つこと)だ、と天野先生はおっしゃいました。私は、このことは医師になってからだけではなく、今からでも実践すべきだと感じました。日常生活の中で人に何かを伝える場面は、これからたくさんあると思うので、誰もが納得できる伝え方ができるように努力したいと思いました。また、「時には立ち止まってよく考えることも必要」とも言われていたので、たまにはそういう時間を設けるようにしたいと思いました。そのほかに、医師になってから必須なものとして、英語、パソコンなどを使ったプレゼンテーション能力、読み書きくらいでもいいから第二外国語を挙げられていたので、特に英語を今からでも頑張っ得意にしていこうと思います。また、勉強以外に大切なこととして、すべてのことが目から入って体が動くように努力すること、と言われていたので、今から少しずつ、そのような意識を持って行動しようと思いました。

さらに、天皇陛下の手術を執刀された時の心境も話していただきました。

手術の依頼が来た時は、自分は場数を踏んでいるから当たり前だと思ったそうです。私は、あまり自信を持って行動することができないほうなので、天野先生の常に自分に自信を持って行動されているところを見習いたいと思いました。これは天皇陛下の手術のときに限らず、難しい手術をするときでも、「いつもと同じだ」という思いを大事にしたそうです。ここでは平均台のたとえを使ってお話していただきました。高さが1mや2mのところにある平均台を渡るときにも、15cmのところにある平均台を渡るときと同じことをするんだ、というような考えを持って臨まれているそうです。これは、私たちにもできる考え方ではないかと思いました。例えば数学の応用問題を解くときに、問題を見ただけで「分からない」と決めつけるのではなく、基礎の問題を解くときと同じようにしてできれば、解ける問題も増えると思いました。私はこの考え方を大切にしていきたいです。この質問に関連して、大きなプレッシャーの中でも落ち着いて普段通りの手術ができるコツのようなものも教えていただきました。それは、まずたくさん経験したり、歴史的な戦術を学ぶことだとおっしゃいました。そして、自分を知り、じたばたしても仕方ないから割りきって自分の実力でやりきることだ、とも言われていました。このような考えは、これからの私たちにとって重要になってくるのではないかと思います。

ここからは、これからの自分にとって大切にしていきたいと思ったことを書きたいと思います。

まず、医師になるために高校時代から続けていたことは何か、という質問に対する天野先生のお答えです。先述の通り、自分が一番医師に向いていると思うこともとても大事だとおっしゃっていました。そのことに加えて、「簡単なことでも難しい点を見つける」また、「難しいことでも簡単な点を見つける」という考え方を大事にしていたそうです。これは、とても大事なことだと思いました。簡単なことだからといって手を抜くのは、医師としても人としても良くないことです。私は、簡単なことこそ手を抜かずにできる人になれるように努力したいと思いました。

次に、医師になるまでで最も大変だったことは何か、という質問には、真っ先に浪人したこと、とおっしゃいました。その一方で、どの年代、どの人にもチャンスは来るのだから、誘惑に負けてもいいけどそれをつかめる準備をしておくことが大切だ、というふうにもおっしゃっていました。これは、色々な所で言われることが多いように思いますが、今まで言われたなかで一番説得力があるように感じました。

また、お聞きして驚いたことは、天野先生の子供の頃の夢です。小さいときから医師を目指していたものだと思っておりましたが、電車の運転手かスキーの選手になりたかったそうです。ちなみに、医師になろうと思ったきつ

かけの一つには、「ブラックジャック」や「白い巨塔」などを見ていたこともあるそうです。

最後に、まとめも兼ねて「これからの医学に期待すること」についての天野先生のご意見を紹介したいと思います。まずは、治らないといわれている病気(がんなど)がより良い形で治るようになってほしいということでした。それから、そのときの保険制度のなかで完結できる医療を行うことを挙げられていました。これについては、どれだけ進歩しても完結できない医療があることを知ったうえで、救える命は確実に救っていきけるようにしたい、というふうにもおっしゃっていました。これからの医療を担っていくのは、私たちのような若い世代も含まれます。将来、医療に従事する仕事に就いたときに、この日、天野先生にお会いして聞いたことを忘れずに、1人でも多くの人を救えるように今から努力していきたいと改めて思えた、貴重な経験でした。

